

## レース報告書

### SUPER GT 第4戦

#### ツインリンクもてぎ

9月12日(土) 予選 天候：曇 (無観客開催)

9月13日(日) 決勝 天候：曇 (無観客開催)

#### 予選結果

Q1：2位

Q2：5位

#### 予選レポート

前戦鈴鹿大会ではポールポジションを獲得し、決勝でも4位フィニッシュで今シーズン初ポイント獲得となった Modulo Nakajima Racing。ツインリンクもてぎで開催される第4戦は、鈴鹿戦同様に暑さの中でのバトルが予想されるが、さらに上のポジションを目指してチーム一丸となってまずは公式練習に臨む。

予選日の天候は朝から不安定そのもので、パラパラと雨が落ちたかと思えば少し空が明るくなるという微妙な中ではあったが、気温は予想より低く、どちらかと言えば過ごしやすい1日となった。公式予選 Q1 が始まる頃にはパラパラと細かい雨が落ちながらも、路面はほぼドライコンディション。まずは大津弘樹がアタックを担当する。大津は計測4周目にベストを更新し1分37秒598の2番手タイムで2戦連続のQ1突破を決めた。相変わらずの不安定な天候の中、Q2がスタート。アタックを担当する伊沢拓也はQ2開始後すぐにコースイン。すると雨が落ち始め、ドライタイヤでは難しいコンディションになり、8台全車が即座にウエットタイヤに交換。伊沢もウエットタイヤを装着して再びコースイン、残り時間5分半でアタックを開始する。徐々に路面が乾き出した影響もあり1分46秒569の5番手で決勝レースに臨むことになった。

## コメント

総監督：中嶋 悟

「ドライだったら・・・と思わざるを得ない内容の Q2 でした。こればかりはどうしようもないことなので、いい流れに乗ってドライでいいレースがしたいですね」

伊沢 拓也

「鈴鹿に続いて朝からドライタイヤで好調でしたが、自分の担当の Q2 では他車と同じくウエットタイヤに交換してのアタックとなりました。終わってみれば、ドライでそのまま行っていれば…という悔しい内容になりました。ただ、ポジションは悪くないですし、ドライのスピードは本当に速いので、明日もスピードを持って戦いたいと思います」

大津 弘樹

「前回に続きドライでの調子は良さそうだったので、Q1 では本当はトップタイムを取りたかったですが、2 番手となりました。雨の降る難しいコンディションで悔しさもありますが、ポテンシャルが高い状況を維持して決勝では表彰台を目指して頑張りたいと思います」

## 決勝結果

10 位

## 決勝レポート

曇り空の下、ドライコンディションで 63 週の決勝レースがスタート。スタートドライバーを務めた伊沢は、オープニングラップで 2 つポジションアップして一気に 3 番手

に。そこから前 2 台に対して、付かず離れずで走行していくが、10 周を過ぎるとコースのあちこちでアクシデントが多発し、セーフティカーが導入される。15 周目にはリスタートが切られ、バトルが再開。伊沢は徐々にタイヤが厳しい状況になっていく中、懸命のブロックを試みながらもポジションを落とすことになり 20 周が終わる頃には 5 番手に。その後もつらい周回が続き 24 周目の終わりにピットインを行なう。

交代した大津がコースに復帰。このタイミングでピットインを行なうマシンが続き、500 クラスのすべてのマシンのピットインが終わった頃には 5 番手を走行。その後、10 周もすると大津も苦しい状況になりつつ、なんとか堪えて走行を続けるが 36 周目には 8 番手までポジションダウン。さらに後ろに迫られ厳しい状況が続き、39 周目に 2 度目のピットインを行なってタイヤ交換のみを行ないコースに復帰。12 番手ながら好タイムで周回をしていく。46 周目にコース上に落下物が発生したため 2 回目のセーフティカーが入る。再開後は残り 10 数週の激しいバトルが繰り広げられ、最後の周で大津は前を捉えることに成功し 10 位に滑り込み、貴重な 1 ポイント獲得となった。

## コメント

総監督：中嶋 悟

「レースの 3 分の 1 くらいまでは流れがいいのですが、まだロングランの部分で弱いところがありますね。今日の最後の 1 点は大きかったです、今回の課題を持ち越さないようにしっかりと改善して次の富士に臨みたいと思います。今大会も多くのご声援をありがとうございました」

伊沢 拓也

「スタートで 2 つポジションを上げて、しばらくはペース良く走れましたが、その後の展開は鈴鹿同様につらい周回になってしまいました。鈴鹿でももてぎでも速さができたので、あとはレースで強く戦えるようにという目標に切り替えて次に向けて頑張っていきたいと思います」

大津 弘樹

「交代した直後はタイヤのウォームアップがよかったので追い上げられたのですが、徐々に厳しい状況になってしまいました。2回目のピットインはタイミングがよかったので、最後の最後に1つポジションアップしてチェッカーを受けることができました。予選では速さを見せられているので、あとはレースでどれだけペースよく走れるかということなので、今後もいろいろ試して積み重ねることで上位を狙っていけるようにしたいです」

※次戦は10月3日・4日に富士スピードウェイで行なわれます。